京都精神保健福祉士協会

きょうと通信 №77

2010 年 3 月発行

事務局：医療法人栄仁会　宇治おうばく病院内
〒611-0011　宇治市五ヶ庄三番割 32-1
TEL　0774-32-8399（直）
FAX　0774-32-8399（直）
e-mail　office@kyo-psw.org
HP　http://www.kyo-psw.org/

【2010 年度総会および記念講演案内】

日　　時：　2010年6月20日（日）
　　午前　総会(2009年度事業報告・2010年度事業計画・他)
　　午後　記念講演
会　　場：　京都アスニー（京都市生涯学習総合センター）
記念講演
　テーマ：　（未定）
　講　師：　岩上洋一氏（NPOじりつ　代表理事　精神保健福祉士）
　　岩上氏は1990年埼玉県に入職、精神保健総合センター、保健所の勤務を経て2002年に退職し、精神障害者地域生活支援センターふれんだむの所長となり「地域のソーシャルワーカー」としてご活躍してこられました。当事者の自分らしく生きるという思いを実現するために、どのような活動を展開されてきたのか、障害者自立支援法への対し方や、地域移行支援事業へのとりくみなどなどこれまでの実践と、それを支えてきたソーシャルワーカーとしての思いをたっぷりお話しいただきたいと思います。

記念講演は日本精神保健福祉士協会京都府支部との共催です。詳細は改めてお届けします。

【1 月例会報告】

日　時：　2010 年 1 月 15 日（金）19：00～21：15
会　場：　キャンパスプラザ京都　4 階　第 4 講義室
テーマ：　「実践から得たすべての力はクライエントのために」
講　師：　山本みどり氏
　　(西陣病院ソーシャルワーカー・京都医療ソーシャルワーカー協会会長)
参加者：　36 名（会員 30 名・非会員 6 名）

1 月例会は、西陣病院より山本みどり氏を講師としてお招きし、「ソーシャルワーカーの力」をテーマにお話をいただいた。

「ソーシャルワーカーは何の道具も持たずに自分自身を使ってクライエントにかかわる。であるならわたしたちは『自分』の内面で動いているものをきちんと意識しているべきではないか？」「クライエントに向き合うとき、クライエントが体験している世界の内側からかかわる視点をもっているか？」という問いかけから山本氏のお話ははじまった。そして、「支援する側にいる」ということは、私たち自身が、何にどのように

影響されているのか、高い意識性がなければ、容易に強者と弱者の関係を成立させてしまうと指摘された。つまり、自己決定のプロセスを「支援」するわたしたちは、クライエントの「支援」への抵抗を封じ込め、そのうち生き続けるために諦め抵抗しないクライエントとならしめる、それにもかかわらず、わたしたちは「支援の成功」という誤った認識をしてしまう危険性がある。これはソーシャルワーカーの「力」の影の部分であると話された。さらに、A・グッゲンビュール・クレイグ『心理療法の光と影』から「人間は『良いこと』を無慈悲な手段で行うことが許されているほど、もっとも残忍になりうるのである」、「ソーシャルワーカーは、あらゆることに口出しをして、何が問題なのかを実際知りもしないで自分の意志をクライエントに押し付ける人としてたち現れるのである。この力が認められない時には感情を害してしまい、意地悪になってしまう人として姿を現すのである」などを引用しながら、その影の部分について深く掘り下げられた。

では、ソーシャルワーカーはいったいどのようにして、その「力」を影ではなく光として使うことができるのか？山本氏ご自身がかかわった事例を紹介しながら、そのかかわりの中で繰り返し自らに問いかけ、葛藤し、行動しておられる過程をお話しされた。そして行動したことについて、自身のソーシャルワーカーとしてのアセスメントはそれでも「未だ 99%」であり、残りの「1%は自問自答を続けること」、そして「続けることが意味するもの」をお聴きし、山本氏のソーシャルワーカーとしての「こだわり」が「実践から得たすべての力はクライエントのために」というテーマにつながっていった。

山本氏の言葉は参加者ひとりひとりの胸にまっすぐに発せられるものだった。それは、冒頭のあいさつで述べられた「いま自分があるのは、お話ができるのはすべて患者さんからいただいたものです」「私が感じた私が担当した患者さんのメッセージは私からしか伝えられないと思う・・」「自分のやってきたことの責任をもつということは勇気を振りしぼって他に伝える、そこの中から学びがあり、批判を受けながら自分を検証していくこともプロになっていく姿ではないかと思う」といったことにあるのだと思われた。

ソーシャルワーカーとして真摯に実践を重ねてこられた山本氏のお話は、聴く者に自らの実践を振りかえらせ、ソーシャルワーカーのあるべき姿をしめし、明日からの勇気を与えてくれるものだった。参加者は皆、ソーシャルワーカー山本みどり氏に魅せられてしまったにちがいない。

（倫理について考える委員会）

【1 月例会感想文】

医療法人　栄仁会　宇治おうばく病院　地域連携室　福徳理恵さん

PSW として働きはじめて、もうすぐ 1 年になりますが、目の前の業務をこなすことに必死になり、実践のなかで葛藤があったとしても避けて通り、向き合うことができていませんでした。今回、私がこれまで「ソーシャルワーカーの力」をどのように使ってきたのか、改めて見つめ直す機会となりました。

クライエントに対して「こうしてはどうか」と提案するとき、経験に基づく判断や制度の枠にあてはめた自分の価値観をクライエントの進むべき道筋として用意し、そこへのるように誘導することが、私の支援のなかには多くあったように思えます。一見クライエントが同意しているように見えても、私から言われたことで、多くのことをあきらめていたかも知れません。山本氏のすべての力をクライエントのために使われなければならないと言う考えに基づいた実践を聞かせていただき、私がソーシャルワーカーの力と向き合えていなかったことに気づかされました。

PSW はクライエントの可能性を引き出すこともできますが、クライエントの力を奪ってしまう危険性もあることを改めて考えました。PSW が、人の暮らしに影響を与え

る仕事であることを意識し、誰のための何のための支援かを問い直すことの重要性を感じました。

医療法人　三幸会　第二北山病院　相談室　占部綾子さん
（倫理について考える委員会　メンバー）

例会は山本みどり氏の考えるソーシャルワーカー像とは何かから始まりました。メスも、薬も使わない、ソーシャルワーカーとは話し方や表情を含めた自分自身をすべて使って援助する仕事であるとおっしゃっていました。その言葉はとても心に残りました。冒頭から山本氏の選ばれる言葉には品があり、とてもやさしい声色で話をされる方だと感じていました。そんな印象の山本氏から話された言葉でありながらも、私にはその中に強烈な力強さを感じました。それは、数多くのクライエントに関わり、葛藤し、それを力に変え、そこからさらにその「力」に目を向け、力の使い方について探求する。それを繰り返してこられた故の言葉である事が例会を通して感じる事が出来たからです。「ソーシャルワーカーとはクライエントが体験している世界の内側に目をむけ、その世界を感じ、その内側からより良い解決策を模索していくべきである。」と話されていました。外側からばかりの視点を持っているならば、それは、医者や看護師や薬剤師となんら違わないと。内側から…という表現を聞いた瞬間は、正直なところ「どういう事だろう？」と思いましたが、その後の山本氏自身が関わった支援例にふれる事で山本氏が伝えようとされた事が明確になっていきました。

支援例では、新人のソーシャルワーカーがクライエントの思いに対して奮闘した結果どのような答えを導きだしたのか、その答えを聞く事が出来ました。その答えは駆け出しワーカーの私にとって、とても勇気がでる内容でした。『クライエントに共感し、体験の共有をする。一生懸命クライエントに向かい合い、その世界に近づこうとして振り絞って導きだした答えが一番素敵である。』勇気が出る内容であったと同時に痛いところを突かれた思いも抱きました。

私は医療機関で働くソーシャルワーカーであり、他職種の集まる組織内にいます。いつしか、無意識のうちに組織や他職種に都合のよいワーカーになっていたかもしれません。院内での他職種からの評価を気にしてしまうあまり、上手く立ち振る舞う事ばかりを優先にしてはいなかったか…と考えたのです。また、自分が良かれと思い、用意したレールにクライエントを誘導し、そのレールに乗る事を目標としていなかったかと自問自答しました。山本氏の言葉でいうソーシャルワーカーの力のまさに影の部分であると思います。

今回の例会で一番の学びとなった事は、まず、ソーシャルワーカーの力というものに対しての概念に気づく事が出来たことです。そして、この学びはこれからも仕事をしていく私の中で一つの核となるような、芯になるような信念を頂けた学びとなったように思います。この学びをどのように実践に結びつけていくか、これからの尽きない課題だと思いました。

【2 月例会報告】

日　時：	2010 年 2 月 6 日（土）14：00～17：00
会　場：	アスニー山科
テーマ：	「くらしを支える最前線～PAS ネットの権利擁護実践から～」
講　師：	上田晴男氏（特定非営利活動法人　PAS ネット理事長）
参加者：	20 名

2 月例会は、京都・滋賀精神保健福祉士協会の合同で行いました。

PAS ネットは、2004 年から西宮市を拠点に様々な専門機関、行政機関、関係団体と協力しながら権利擁護支援活動を行っています。PAS ネットでは、次の 3 つの領域を合わせて「権利擁護」と考えています。
1)虐待、消費者被害などの権利侵害から救済、保護すること,
2)生活に必要なサービスの利用計画や日常の金銭管理など権利行使の保障をすること、
3)地域で生活するために必要なサービスを作り出す新しい権利の創造、

実践内容は、①本人の支援（家族･友人、コミュニケーション、自己決定支援、相談支援、障害認知受容)、②法的支援（成年後見制度、多重債務の整理、虐待救済、財産管理)、③生活支援（福祉サービス利用、日常的金銭管理、所得保障等、見守り支援、医療的ケア）の 3 つの支援軸からなります。

例えば、高齢者虐待の事例では、権利侵害に関して、地域包括支援センターと PAS ネットが協力して取組んでおられます。すぐには判断が付かない、地域だけでは対応が出来ない問題が多々あります。困難事例はほとんどが支援者混乱事例で、混乱している状況を PAS ネットが整理に関わっておられます。法律職、福祉職、医療関係者など多くの人と共同することで、解決策が見つかることも多く経験されるそうです。また、虐待している人、されている人ともに支援ニーズを抱えている場合もあり、そういう状態になっている理由に注目し、両方が、その人なりの権利行使ができるように支援されています。

権利擁護支援のケアマネジメントでは、『専門職の価値観に本人を当てはめようとしていないか、本人はどう思っているのかを常にきいていくことが大切で、本人の価値観と社会の価値観、評価との折り合いを築く“ 橋渡しの支援 ”が必要であること』、『権利擁護が目指すものは、“ 自分らしく、ふつうに、みんなと暮らす ”こと。しかし、“ ふつう ”が結構難しく、評価が支援者間でも違いが出てくる事がある。“ ふつう ”の幅について支援者間で話し合い、折り合いを作ること』、『セルフネグレクトでは、本人が拒否しているから支援は出来ないという意見もあるが、それは本人が支援を拒否している状態像であり、そういう状態像を支援ニーズと捉えている』、『困難なケースを困難と思わない。最終的には解決はめざすが、いきなり解決はしないので、どうすれば局面が変わるか、環境条件が変わるかをまず考えるようにしている。そうすると、局面が動いていって、大変だけど大変じゃなくなることがある』と支援のポイントや視点をおききしました。

誰もが年をとったり障害をもつことで、一人では自分を守ることが出来なくなることがあります。PAS ネットでは、権利擁護支援を地域生活のセーフティーネットづくりととらえ、多くの専門機関と支援の輪を形成する中で、改善や新しい制度作りに取組んでおられます。

【アンケートより】

- 異なる視点でのご教示をいただいたのでとても勉強になりました。権利擁護をはき違えることがないように業務に活かしていきます。
- 権利について具体的に考え取り組んでいきたいと思いました。そのためには日常的にも、また今日のような感じでも、振り返り、言葉にし、人から意見をいただく機会が不可欠だと思いました。
- 非常に楽しく聴けました。普段の業務の中で疑問に思っていることも明確になりました。「本人主体」ということをもっと大切にしていきたいです。
- 京都にも PAS ネットのようなところが欲しいと思いました。

（権利擁護委員会）

【2009 年度　京都精神保健福祉士協会　初任者研修報告】

京都精神保健福祉士協会としては初めて今年度、日本精神保健福祉士協会より委託を受け、生涯研修制度のうち基幹研修 I を開催しました。2007 年度から京都協会が独自に展開してきた内容に、日本協会のものを加え、精神保健福祉士の初任段階での資質向上を図る目的でプログラムが組まれました。おおむね 3 年目までの初任者に加え、日本協会京都支部会員として基幹研修 I を履修したいという中堅どころの受講者も多く参加していました。

初日の最初の講義は「日本精神保健福祉士協会の役割と課題」として、宮本浩司氏をお迎えしました。Y 問題が投げかけたものや、国家資格成立の経緯についてわかりやすく伝えてくださり、社会における専門職団体として一人ひとりが意識し行動することの重要性を学びました。

次の「精神保健福祉士の専門性 I ～価値と視点～」では、柏木一恵氏からレジュメを基に、いくつかの課題が示され、それにとりくみました。PSW として自分のアイデンティティを追究し点検していくことがなぜ必要なのか、かかわりとはどういうことなのかを全員で考えるひと時をもちました。

続いて、「私の大切にしてきたこと～精神保健福祉士の実践論 I」として、家原敏彰さん、村社孝子さんから、それぞれの実践に時代背景や法制度・社会の変遷を織り交ぜて、さまざまな葛藤や変わらず大切にしてこられた信念を語っていただきました。

最後のプログラムでは、家原さんと村社さんのお話を受けて、「精神保健福祉士である私が、よかったと思うこと、今悩んでいること」などについてグループに分かれ話し合いました。

受講後のアンケートには「自分を振り返る貴重な機会を持てた」「自分だけでなくいろんな人が実践の中で迷い、それでも日々取り組んでいると分かちあえた」というような声があり、とくにグループで日頃の思いを丁寧に扱い、共感しあい、励ましあうことの大切さが改めて確認できました。

2 日目の研修は、基幹研修 I ではなく当協会の初任者研修という位置づけで、1 週間後に行われました。プログラムは「協会の歴史や組織体制について」「精神保健福祉士の倫理について」です。

協会の歴史については前会長でもある中瀬慶子さんが、組織については西村会長が担当してくださいました。京都で PSW がいかに根づき、発展してきたのか、今となっては「あって当然」であるいろいろな資源の歴史と合わせて、全国の状況と対比させながら、整理していただきました。また今の組織体制もこれらの延長にある一連の流れとして理解できるようなお話でした。時間上、駆け足での講義になったため、「もう少し深めたかった」というような感想が多く寄せられました。

続いて行われた「精神保健福祉士の倫理について」は、倫理について考える委員会が担当してくださいました。例年通りのグループワークを使いながら、趣向をこらした仕掛けを随所に盛り込み、会場全体を使って場を盛り上げ、さらには 2 年ぶりに「寸劇」も復活を果たし…と、笑いあり、真剣さあり、と盛りだくさんなプログラムでした。「抽象的な概念を身近に捉えられた」と大好評でした。アンケートでも「継続して理解を深めていく必要性を感じた」や「本当に自分のものにするには時間がかかりそう」と今後に向けて真摯に取り組みたいと言う意見が複数寄せられました。

3 日目の研修は、初任者研修の恒例となった「記録と面接について」西邑さんと佐藤さんを講師に迎え、行いました。

3 時間という短い時間の中で 3 人グループに分かれ、クライエント・面接者・観察者

という視点からロールプレイ中心の研修となりました。
　講師の方々から「良い記録が良い支援に繋がる」「変わらない支援者の前には変わらない利用者がいる」といった言葉を聴いて、自分自身を見直すことができた受講生も多かったようです。
　受講生からは、クライエントの立場で悩みを言葉にすることの難しさを感じた方。面接を苦痛と感じるのではなく、楽しく進めていくことの大切さを気づいた方などの声を聴くことができました。

（初任者研修担当：岩井 授身、上田 正人、梅崎 明日香、小野 紀代子、亀海 聡、
熊取谷 晶、髙田 亮、中田 亮太、服部 小書、松井 玲子、
畚野　真木、宮崎 彰造、深田 順子、山本 裕造、吉田 悦子、
吉田 久美子）

日程	時間	配分（分）	プログラム内容
2010年 1月24日(日) （基幹研修Ⅰ）	10:30～ 12:00	90	「日本精神保健福祉士協会の役割と課題」 講師：宮本浩司氏（日本精神保健福祉士協会常任理事・兵庫県・アネックス湊川ホスピタル） ※　京都精神保健福祉士協会初任者研修「選択科目」
	13:00～ 14:30	90	「精神保健福祉士の専門性Ⅰ」～価値と視点～ 講師：柏木一恵氏（日本精神保健福祉士協会常任理事・大阪府・浅香山病院）
	14:50～ 16:20	90	「私の大切にしてきたこと ～精神保健福祉士の実践論Ⅰ」 講師：家原敏彰さん（京都府中丹東保健所） 村社孝子さん(元 生活訓練施設アスロード施設長)
	16:30～ 18:00	90	「演習Ⅰ（グループワーク）」 コーディネーター：上田正人さん（岩倉病院） 知名純子さん（まるいクリニック）
2010年 1月30日(土)	13:00～ 14:30	90	「京都精神保健福祉士協会の歴史」 講師：中瀬慶子さん（当協会前会長・京都精神保健福祉協会） 「京都精神保健福祉士協会の組織体制」 講師：西村睦美さん(当協会会長・川越病院）
	14:45～ 17:45	180	「精神保健福祉士の倫理」 担当：倫理について考える委員会
	18:30～ 20:30		懇親会
2010年 1月31日(日)	13:00～ 14:30	90	「記録の書き方について」 講師：西邑章さん（京都府丹後保健所）
	14:45～ 16:15	90	「面接技術について」 講師：佐藤純さん（京都ノートルダム女子大学）

参考までにアンケートの集計結果について掲載します。

2009 年度　初任者研修アンケート集計結果

1.受講者状況

	第1日目	第2日目	第3日目	懇親会
受講者	50	33	36	10
京都P会員	43	27	30	10
日本P（京都）	6	6	6	0
日本P（他府県）	1	0	0	0

2.アンケート結果

1）第1日目（基幹研修Ⅰ）アンケート結果

①受講者の経験年数

1年目	9
2年目	8
3年目	11
4年以上	15
回答なし	4

②受講の動機

・初任者だから	22
・基幹研修Ⅰを受講希望	26
・内容に興味	6

③日本精神保健福祉士協会の役割と課題

・大変良く理解できた	18
・まあまあ理解できた	28
・あまり理解できなかった	1
・ほとんど理解できなかった	0

④精神保健福祉士の専門性Ⅰ　～価値と視点～

・大変良く理解できた	26
・まあまあ理解できた	20
・あまり理解できなかった	1
・ほとんど理解できなかった	0

⑤私の大切にしてきたこと～精神保健福祉士の実践

・大変良く理解できた	21
・まあまあ理解できた	24
・あまり理解できなかった	2
・ほとんど理解できなかった	0
・回答なし	2

2）第2日目・第3日目（初任者研修）アンケート結果

①受講者の経験年数

1年目	6
2年目	8
3年目	8
4年以上	6
回答なし	2

②受講の動機

・研修対象だった	21
・日本Ｐ協会基幹研修Ⅰを受講したかった	8
・プログラム内容に興味があった	7

③京都精神保健福祉士協会の歴史

・大変良く理解できた	11
・まあまあ理解できた	16
・あまり理解できなかった	1
・ほとんど理解できなかった	0
・回答なし	2

③京都精神保健福祉士協会の組織体制

・大変良く理解できた	10
・まあまあ理解できた	17
・あまり理解できなかった	1
・ほとんど理解できなかった	0
・回答なし	2

④精神保健福祉士の倫理

・大変良く理解できた	19
・まあまあ理解できた	8
・あまり理解できなかった	1
・ほとんど理解できなかった	0
・回答なし	2

⑤記録の書き方

・大変良く理解できた	22
・まあまあ理解できた	6
・あまり理解できなかった	0
・ほとんど理解できなかった	0
・回答なし	2

⑤面接技法

・大変良く理解できた	25
・まあまあ理解できた	3
・あまり理解できなかった	0
・ほとんど理解できなかった	0
・回答なし	2

【公開レクチャーの報告】

日　時：2010 年 2 月 13 日（土）
テーマ：2008 年会員労働実態調査結果をどう読むか～協会活動への活用に向けて
講　師：岡田まりさん（立命館大学）
場　所：まるいクリニック 5F 会議室

2 月 13 日（土）役員会終了後の 18:30 から岡田まりさんより実態調査結果についてのレクチャーを受けました。当日は会員もあわせて 16 名の参加があり、21:00 頃まで活発な意見交換が続きました。調査結果の前半はいわゆる労働条件、待遇面についての

実態をあらわすものです。その改善をめざしていくにあたっては職場に労働組合が「ない」また「加入していない」が半数以上あり、実態の改善を求めていく基盤は弱いということも明らかになったもののひとつです。後半の調査結果は業務に関連する困難さや継続する上での要因などを問うものでした。この問いそのものが専門職の課題として取り組むべきで、それをテーマにした研修や活動につなげることができることを教わりました。終盤では「専門職としての意識」についての議論が活発となり、「他職種と対等にやりあえる」「明確にものが言える」ことができるか、そのために必要なことは何か、理念や理論が実践に活かされるためのトレーニングなどが話題になりました。実態調査結果は現状と課題をあらわすものとして貴重であり、今後の協会の事業に反映していきたいと思いました。

（レクチャー担当　西村睦美）

【リレー職場紹介】

NPO 法人つくし　地域活動支援センター　共同作業所つくしハウス
指導員　宮島真澄さん

つくしハウスは、前身である京都つくし会という家族会からスタートしました。京都つくし会は 1991 年 4 月に結成されました。その後、多くの方々のご支援やご努力、ご理解をたまわって作業所活動を開始し、長らく京都市上京区で唯一の精神保健福祉施設として、地域に暮らす精神障害者の拠り所として展開してきました。それから 2002 年 10 月、作業所を同じ上京区内にもう 1 ヶ所増やし（嘉楽小路つくし）、2004 年 3 月に NPO 法人を取得し今に至っています。

現在、利用者は 27 名で、職員は常勤が 4 名です。活動内容は、作業所内外での授産の仕事（箱折り、ダイレクトメール、生協の個配仕分け、喫茶、製本、やおやなど）、「行事のつくし」と称されるほど多彩な行事（花見、キャンプ、一泊旅行、日帰り旅行、忘年会、作品展…）、地域での各種イベント・まつりへの参加などです。授産は、そのほとんどを嘉楽小路つくしと共同で取り組んでおり、行事についても全て嘉楽小路つくしと合同で取り組み実行しています。

上記のように盛りだくさんに過ぎていく日々の中で、私達職員はそれぞれのメンバーが各自の目標に向かって進んでいく支援をするという大切な役割を担っています。目標は人により、就労、居場所、生活のリズムを整える…と様々です。そのために、とにかくメンバーと話をすることを心がけて働いています。作業所は日中の多くの時間を一緒に過ごします。その中で、まずは雑談が大事と考えます。「面談」「面接」というかしこまった形式ではなく、作業中や行事・休憩時の何気ない会話にこそその人らしさが感じられます。そこからその人その人の個性や思いなど色々なものが見えてきます。この、何でも話せる雰囲気がつくしハウスのアットホームさや活気にも繋がっていると感じます。

また、利用者主体で物事を進めるということも心がけています。そのために、行事は全て実行委員会形式で行い共に進め、月に 1 回メンバーミーティングを開き様々なことを話し合っています。職員間で迷った時もメンバーに返し、必ずメンバーの声を聞きます（作業所の主役はメンバーなので当たり前といえば当たり前ですが）。これにより、何でも共に悩み、頑張り、楽しむつくしが実現していると思います。このような日々の活動は「役割を担う→自信回復や居場所としての実感→回復」という役割を果たしていると思います。

精神保健福祉士としてこの仕事を通じて考えていること…というと大げさですが、私たちは本当に日々メンバーに助けてもらい、教えてもらうことばかりです。当事者であ

り人生の先輩であり、病気や障害ゆえの、辛いことも含めた体験を聞かせてもらっています。だからこそ、メンバーのこれまでの人生に思いをはせ、敬意の念を忘れずに仕事を続けていきたいと思います。

【2009 年度　第 6 回役員会概要報告】

日　時：	2010 年 2 月 13 日（土）15：00～18：30
場　所：	まるいクリニック会議室
出　席：	上田・大塚・岡島・小野・亀海・木下・熊取谷・下村・知名・西村・前田・松田・物・吉田・渡辺
欠　席：	梅崎・斎藤・佐藤
書　記：	日置（事務局員）

Ⅰ.前回役員会（2009 年 12 月 19 日）以降、対外関係ほか（大塚）

1.後援依頼

共同募金配分金事業「精神障害者を支える地域づくりに関する研修会」
（主催：京都府社会福祉協議会）→承認した

① 3 月 20 日(土)10:00‐12:00　会場）ハートピア京都
講演会「こころの医療　宅配便～ＡＣＴがひらく地域精神医療・福祉の未来～」
講師　高木俊介氏(たかぎクリニック医師)

② 3 月 22 日(祝)10:00‐12:00　会場）ガレリア亀岡
講演＋DVD 上映「地域で暮らすことと働くこと～ほのぼの屋の実践から～」
講師　西澤心さん（ワークショップほのぼの屋施設長)、メンバー（当事者）

2.京都市高齢者・障害者権利擁護ネットワーク連絡会議（主催：京都市長寿福祉課）

日時）1 月 28 日 13：30～15：00　場所）ホテル本能寺 5F 醍醐ホール
出席）斎藤

3.高齢者の権利擁護に関する現状と課題についての意見交換会（主催：京都弁護士会）

日時）2 月 9 日 14：00～16：00　場所）みやこホテル　参加を会員へメール配信にて募ったが役員会当日には希望者はなく、後日 1 名あり
出席）小澤朋子さん（小川地域包括支援センター）

4.京・福祉の研修情報ネット事業への登録依頼について

事業内容：質の高い福祉人材の育成のため、より多くの研修の機会を提供することを目的に、インターネットを活用し、福祉に関する研修や講座等の情報を取りまとめ、福祉従事者をはじめ広く市民に向けて情報発信、申し込み手続きを支援するもの。

・掲載する研修は、市内の福祉従事者および福祉活動にかかわるボランティアや福祉に関心のある市民を対象にしたもの
・できることは、研修の閲覧・検索、申し込み、メールマガジンの配信
・利用料は無料
・管理者（事業委託先）は、京都市社会福祉協議会（事務局：京都市洛西ふれあいの里研修保養研修センター)、設置は京都市
・京・福祉の研修情報ネットhttp://www.miyako-kenshu-net.jp運用開始 1 月 26 日

→　登録する。事業運営協議会委員は巌弥生子さん（川越病院)、事業委員に協会より選出しており兼任をお願いすることとした。事業への登録、情報登録・更新については、研修担当副会長が担うこととする。

5.予定：第 3 回京都府医療観察法制度運営連絡協議会（主催：京都保護観察所）

日時）3 月 1 日 15：00～17：00
場所）京都保護観察所 2F 会議室　出席）西村会長

Ⅱ.各部から

1.通信情報部（下村・松田）

○通信 76 号発行（1 月 23 日郵送、25 日メール配信）、77 号準備中（2 月 24 日原稿締切り予定）との報告がされた。

○HP リニューアルの進捗状況について
通信バックナンバー点検中、会員用ページでの各所属機関のリンクを検討中、さらに「京・福祉研修ネット事業 HP」についても、一般向けリンクで対応していきたいと報告された。

2.研究研修部（小野・熊取谷・吉田）

○例会　1 月例会、2 月例会についてそれぞれ実施報告がなされた。
予定）日　時：3 月 13 日（土）14:00～17:00
会　場：かもがわ
担　当：研究研修部　小野
テーマ：スーパーヴィジョン　講師：上田寿之氏

○初任者研修（熊取谷）
参加者）1 日目 52 名、2 日目 33 名、3 日目 38 名（各日内訳）
懇親会 10 名＋初任者研修担当委員など
課　題）運営マニュアルの作成、受講対象者の明示、申込締切後の入会申請者の取扱い、修了証書（基幹研修 I）の発行基準、使用テキストの案内、申込受付通知の方法、懇親会開催について、グループの運営方法、内容事前打合せなどについての課題が挙げられた。
振り返り）2 月 17 日予定（会場：ジョイントほっと）

3.権利擁護委員会（物）

○委員会　12 月 22 日　1 月 18 日　2 月例会の打ち合わせを行なった。

○2 月例会企画運営

○京都市高齢者・障害者権利擁護ネットワーク連絡会議　出席）斎藤

4.障害者自立支援法委員会（知名）

○委員会　1 月 11 日（月）　障害者総合福祉サービス法（仮）について、国がヒアリングを開始しているため、協会としての要望をまとめようと検討を始めた。

5.実習検討委員会（物）

「第 7 回精神保健福祉士の養成の在り方等に関する検討会」（11 月 17 日）について、会員へメールにて情報提供（2 月 9 日配信）した。

6.倫理について考える委員会（木下・西村）

○委員会　1 月 8 日、1 月 15 日（例会後）、1 月 25 日、2 月 9 日
場所）高木神経科医院会議室　例会・初任者研修の準備および振り返り

○1 月例会企画運営

○初任者研修　第 2 日目「精神保健福祉士の倫理」を担当

○冊子について　原稿書き換えの経緯と進捗状況について報告された。

7.心神喪失者等医療観察法学習会（渡辺）

活動なし。次回委員会 2 月 25 日（木）19：30 から予定。

8.京都府支部担当（上田）

○支部長会及び災害支援体制整備検討会議

12 月 19 日（土）20 日（日）　場所）日本財団（東京都）
京都府支部事務局長吉田久美子さんが代理出席
〇代議員　　上田さんが任期を満了するとの報告
〇日本協会全国大会は、開催する都道府県で運営委員会を結成し企画運営をしていたが、2011 年度（和歌山大会）から、日本協会本部で決められた大枠に則って行うこととなった。和歌山は運営委員となる精神保健福祉士が少ないため近畿ブロック内でバックアップすることになった。

9.協会設立 10 周年記念誌編集委員会（前田）

委員会　第 3 回　1 月 16 日(土)　場所）京都精神保健福祉協会事務所
2011 年度総会時発行に向け、2 カ月に一度委員会を開催していく予定

10.事務局(大塚)

〇入会審査　4 名の入会が承認された
〇現在会員数　2 月 13 日現在　332 名
〇変更届　事務局にて届出事項を誤って処理する事態が複数回発生したため、会員名簿に添付してある届出の書式変更を検討していくこととした
〇入会案内・申込書　在庫減少のため、変更箇所がないか確認し発注することとなる
〇会計「費目の変更について」三役会から変更案を提出、さらに検討を重ねる。
〇会費未納者について　2 月 13 日現在の 2 年分滞納者 23 名に役員で分担して電話連絡を行っていくこととなった

11.再入会審査にかかる手続き等について

通信にて意見を募ったが、現在のところ意見なし。

Ⅲ.2010 年度総会について

〇2010 年度より、京都府支部は総会を別の日に開催するとの報告を受け、記念講演会については、例年通り共催とすることが確認された。
〇開催日時、会場、記念講演のテーマ・講師について検討を行った。

【事務局からのお知らせ】

会員の動向

〔会員数〕平成 22 年 3 月 3 日現在 330 名

［入会］
堤　こずえ　さん（所属）医療法人　稲門会　岩倉病院　医療福祉相談室
落合　誠一　さん（所属）医療法人　稲門会　岩倉病院　医療福祉相談室
［退会］
植松　俊典　さん（所属）名古屋保護観察所
関谷　豊美　さん（所属）琵琶湖病院　心理・相談室

会員名簿の訂正のお願い

〇会員五十音順一覧：
P7　津田みづきさん　　NPO 法人 Salut 共同作業所サリュ
電話番号・FAX 番号　訂正お願いします。
電話番号：　　誤：075-521-1570 正：075-812-2132
FAX 番号：　　誤：075-521-1571 正：075-812-2132
会員の皆さまにご迷惑をお掛けし申し訳ありませんでした。お手元の会員名簿の修正を

お願いいたします。（事務局）

【役員辞任のお知らせ】
佐藤純さんから一身上の都合による役員辞任の申し出があり、3 月 20 日開催の役員会で審議し承認されました。
【役員補充についてのおねがい】
上記のように任期途中での役員辞任ということになり、「役員選出規則　第 7 条」に基づき、補充を行うことになりました。補充については「総会での承認」とあるだけで特に取り決めがありません。役員を担っていただける方はぜひ事務局までご連絡ください。

補充役員　1 名
任期　2010 年度（2011 年度総会まで）
担当　専門委員会　実習検討委員会
（担当委員会に関する特別な経験等は問いません）
締め切り　4 月 16 日　17:00
連絡先　当協会事務局

ご連絡お待ちしております。　　会長　西村睦美

ほっとひと息コーナー

「私たちの RUN スタイル」小学館発行　（定価 1365 円）
月刊誌「ランナーズ」　（定価 680 円）

間寛平の異国で走る姿に心の中で応援し、箱根マラソンの柏原竜二選手の快走ぶりに驚き、2 月末の東京マラソンでは最近は走る人も多いんだなぁと人ごとのように思って過ごしていた私ですが、最近は、身近でマラソンに初挑戦する人もあり、また、先日車いす使用の友人に、車いすを押してホノルルマラソンで走ってもらえないかと冗談で？！声をかけられて以来、マラソンが気になってきて仕方なくなり、ドキドキして「私たちの RUN スタイル」を手に取りました。ダイエットラン等女性むきの内容ながら、東京マラソンやホノルルマラソンに関する記事やおしゃれなサポート小物等の情報も満載で、楽しく読みきり、気分は高揚。勢いついて、月刊誌「ランナーズ」を読み、ランニングペース調整に役立つ「心拍計」も買ってしまいました。走る準備は万端ながら、いつからトレーニングを始めようかと少し尻込みしております。（笑）

月刊「ランナーズ」で、50 代でマラソンを始め 80 代でもフルマラソンに参加している人も結構いらっしゃることも知り、びっくり！私としては、短距離マラソンの完走を目標に、老いゆくことに負けないよう、細く長く走ることを継続したいと思います。

春を感じる季節、皆さん、マラソン始めてみませんか？

（支援センター「らくなん」　仲宗根　友香）

【編集後記】

今号は例会報告、初任者研修報告もあり、ボリューム満点でした。季節の変わり目、皆様、お体に気をつけてお過ごしください。（仲宗根）

日が沈むのが遅くなるにつれて、春の近づきを感じております。釣りが趣味の私は、春が来るのを楽しみにまっています。（片岡）